2027年６月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月11日

上場会社名　　ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　6090　　ＵＲＬ　https://humanmetabolome.com
代表者　　（役職名）代表取締役社長兼ＣＦＯ　　（氏名）大畑　恭宏
問合せ先責任者　（役職名）代表取締役社長兼ＣＦＯ　　（氏名）大畑　恭宏　　ＴＥＬ　03-3551-2180

配当支払開始予定日　　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年６月期第１四半期の連結業績（2026年７月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年６月期第１四半期	253	31.6	△4	－	△0	－	△3	－
2026年６月期第１四半期	192	△29.8	△91	－	△90	－	△97	－

（注）包括利益　　2027年６月期第１四半期　△5百万円　（－%）　　2026年６月期第１四半期　△95百万円　（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年６月期第１四半期	△0.59	－
2026年６月期第１四半期	△17.10	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年６月期第１四半期	1,974	1,700	86.1
2026年６月期	2,280	1,828	80.2

（参考）自己資本　　2027年６月期第１四半期　　1,700百万円　　2026年６月期　　1,828百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年６月期	－	0.00	－	18.00	18.00
2027年６月期	－				
2027年６月期（予想）		0.00	－	18.00	18.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年６月期の連結業績予想（2026年７月１日～2027年６月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,500	5.5	220	4.8	220	6.4	170	△15.2	31.37

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
②　①以外の会計方針の変更	：有
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年６月期１Ｑ	5,919,797株	2026年６月期	5,919,797株
②　期末自己株式数	2027年６月期１Ｑ	542,218株	2026年６月期	500,018株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年６月期１Ｑ	5,399,966株	2026年６月期１Ｑ	5,680,762株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料２ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

当社の決算補足説明資料は、決算発表後速やかにTDnetで開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（会計方針の変更） …… 8
（四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理） …… 8
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 8
（重要な後発事象） …… 8
３．補足情報 …… 8
販売の状況 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善により景気は緩やかな回復基調にありますが、物価上昇、中東地区を中心とする地政学的リスク、金融政策の変更などに伴い、内外経済が下振れするリスクがあることから、引き続き先行きの不透明な状況が続くことが見込まれます。

当社グループが属するライフサイエンス業界では、健康管理へのニーズの高まりを受けた研究開発の増加傾向が継続しています。またバイオエコノミー推進政策によるバイオものづくり関連の研究開発も増加が見込まれています。

このような状況の中、当社グループではライフサイエンス研究支援サービス、機能性素材開発支援サービス、バイオものづくり支援サービスの受注拡大に向けた活動を行いました。研究開発においては、ＴＩＡＤ６の戦略に基づき技術競争力の強化のための開発を推進し、並行してヘルスケア検査受託サービスなどの新規事業の準備にも取り組みました。

当第１四半期連結累計期間の売上高は、253,163千円（前年同期比31.6%増）と増加いたしました。

サービス別には、ライフサイエンス研究支援サービスが、国内製薬企業からの大型受注と国内アカデミアからの売上の増加などにより、対前年比で71,482千円増と大幅に増加いたしました。機能性素材開発支援サービスは、当四半期が臨床試験の端境期となったため対前年比で8,167千円減少しました。バイオものづくり支援サービスについては、企業案件は堅調に推移しましたが、アカデミア経由の共同研究案件が端境期となったため微減（対前年比で2,529千円減少）となりました。

分野別には、以下のように推移いたしました。

・アカデミア分野は、バイオものづくり支援サービスでは売上が減少となりましたが、ライフサイエンス研究支援サービスで受注が回復したため、分野全体で3,727千円売上が増加いたしました。

・製薬企業分野は、ライフサイエンス研究支援サービスでの大型案件の売上が計上できたこと、バイオものづくり支援サービスによる増加などにより分野全体で55,437千円売上が増加いたしました。

・食品分野は、ライフサイエンス研究支援サービスの売上増などにより分野全体では2,367千円売上が増加いたしました。

・化学企業その他では、バイオものづくり支援サービスで売上が増加しましたが、ライフサイエンス研究支援サービスの売上が減少した結果、分野全体の売上はほぼ横ばいとなりました。

売上原価は、提携サービス仕入が減少したこと、潤沢な受注残により仕掛残が増加したことなどにより、大幅に減少いたしました。販売費及び一般管理費につきましては、技術競争力強化に向けた開発費は増加いたしましたが、低迷する海外子会社の経費削減などに努めた結果、前年同期とほぼ同等となりました。

この結果、売上総利益は162,890千円（前年同期比113.5%増）となり、営業損失は4,709千円（前年同期は91,141千円の営業損失）、経常損失は687千円（前年同期は90,522千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3,233千円（前年同期は97,176千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

（２）財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

（流動資産）

当第１四半期連結会計期間末における流動資産は1,424,133千円となり、前連結会計年度末に比べ343,783千円減少しました。これは、賞与支給、未払金の支払い、未払消費税等の納付及び配当の支払い等により現金及び預金が326,924千円減少したこと等によるものであります。

（固定資産）

当第１四半期連結会計期間末における固定資産は550,125千円となり、前連結会計年度末に比べ37,722千円増加しました。冷暖房設備の更新により建物及び構築物が30,000千円増加したこと等によるものであります。

（流動負債）

当第１四半期連結会計期間末における流動負債は260,989千円となり、前連結会計年度末に比べ177,766千円減少しました。これは未払金が78,915千円、賞与の支給により賞与引当金が56,660千円減少したこと等によるものであります。

（固定負債）

当第１四半期連結会計期間末における固定負債は12,638千円となり、前連結会計年度末に比べ5千円が増加しました。これは資産除去債務が5千円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第１四半期連結会計期間末における純資産は1,700,630千円となり、前連結会計年度末に比べ128,299千円減少しました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失3,233千円の計上、配当金の支払い97,556千円により、利益剰余金が100,789千円、自己株式の取得により自己株式が25,686千円減少したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、例年第３四半期連結会計期間に収益が偏る傾向にありますが、当第１四半期連結累計期間の連結業績は、予想の範囲内で推移しております。また、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しにつきましても、現在のところ重要な変更事項はありません。そのため、通期の業績予想につきましては、2026年８月７日公表から変更はございません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年６月30日）	当第１四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,444,180	1,117,256
売掛金	262,362	220,940
商品	9,691	23,869
仕掛品	5,960	26,456
原材料及び貯蔵品	11,922	14,257
その他	38,394	25,806
貸倒引当金	△4,595	△4,453
流動資産合計	1,767,916	1,424,133
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	107,074	137,074
工具、器具及び備品	783,946	810,733
リース資産	14,338	13,893
減価償却累計額	△640,959	△663,427
有形固定資産合計	264,399	298,273
無形固定資産	33,261	37,078
投資その他の資産		
投資有価証券	49,980	49,980
繰延税金資産	159,519	159,527
その他	5,242	5,266
投資その他の資産合計	214,741	214,773
固定資産合計	512,402	550,125
資産合計	2,280,319	1,974,259
負債の部		
流動負債		
買掛金	22,177	4,641
短期借入金	100,000	100,000
リース債務	3,877	2,518
未払金	117,616	38,701
未払法人税等	21,496	6,287
賞与引当金	77,695	21,035
その他	95,892	87,805
流動負債合計	438,756	260,989
固定負債		
資産除去債務	12,632	12,638
固定負債合計	12,632	12,638
負債合計	451,388	273,628

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年６月30日）	当第１四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,488,979	1,488,979
資本剰余金	7,378	7,378
利益剰余金	699,868	599,078
自己株式	△350,236	△375,923
株主資本合計	1,845,989	1,719,513
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△17,059	△18,882
その他の包括利益累計額合計	△17,059	△18,882
純資産合計	1,828,930	1,700,630
負債純資産合計	2,280,319	1,974,259

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
売上高	192,377	253,163
売上原価	116,070	90,272
売上総利益	76,306	162,890
販売費及び一般管理費	167,447	167,599
営業損失（△）	△91,141	△4,709
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,438	2,071
為替差益	－	1,558
その他	258	1,102
営業外収益合計	1,697	4,731
営業外費用		
支払利息	627	467
自己株式取得費用	233	242
為替差損	211	－
その他	6	－
営業外費用合計	1,078	709
経常損失（△）	△90,522	△687
特別利益		
新株予約権戻入益	17,993	－
特別利益合計	17,993	－
税金等調整前四半期純損失（△）	△72,528	△687
法人税等	24,648	2,546
四半期純損失（△）	△97,176	△3,233
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△97,176	△3,233

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
四半期純損失（△）	△97,176	△3,233
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,786	△1,823
その他の包括利益合計	1,786	△1,823
四半期包括利益	△95,390	△5,056
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△95,390	△5,056
非支配株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（税金費用の計算方法の変更）

従来、税金費用につきましては、原則的な方法により計算しておりましたが、四半期決算業務の一層の効率化を図るため、当第１四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

（四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第１四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等及び法人税等調整額は区分せず、「法人税等」に含めて表示しております。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第１四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	27,342千円	28,897千円

（セグメント情報等の注記）

前第１四半期連結累計期間（自　2025年７月１日　至　2025年９月30日）

当社グループは、メタボローム解析受託サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第１四半期連結累計期間（自　2026年７月１日　至　2026年９月30日）

当社グループは、メタボローム解析受託サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

３．補足情報

販売実績

種類	前第１四半期累計期間	当第１四半期累計期間	増減率
ライフサイエンス研究支援事業	122,976千円	194,458千円	58.1%
機能性素材開発支援事業	36,220千円	28,053千円	△22.5%
バイオものづくり支援事業	33,181千円	30,651千円	△7.6%
合計	192,377千円	253,163千円	31.6%